

故事成語 1

故事成語の意味がわかる

月 日
名 前

■ 次の故事成語とその意味を、それぞれてむすびまじょう。
故事成語とは、主に昔の中国の話(故事)をもとにしてきた言葉のことです。

(1) 矛盾

つじつまが合わないこと。

どんなものでもつき通せるといふ矛と、どんなものでもつき通せないといふ盾を売っていた商人に、ある人が「あなたが売っている矛で、あなたが売っている盾をついたらどうなるのか」とたずねたところ、商人は答えることができなかったという話からできた言葉。

(2) 五十歩百歩

苦労して勉強をした成果。

戦いどきに、敵から五十歩逃げた人が百歩逃げた人を笑ったが、どちらも逃げたこととに変わりはないという話からできた言葉。

(3) 螢雪の功

どちらも大きなちがいはないこと。

貧しくて灯油が買えず、雪の明かりや螢の光で勉強し、やがて出世した人物の話からできた言葉。

(4) 圧巻

激しくおこること。

役人になる試験のときに、最も優秀な人の答案を、ほかの人の答案のいちばん上に置いたという話からできた言葉。

(5) 怒髪天をつく

たいへん苦しく悲しいこと。

大国の王に無礼なふるまいをされた小国の使者が、かみの毛がさかだつて、頭にかぶつたかんむりをつくほどすさまじくおこつたという話からできた言葉。

(6) 背水の陣

ほかと比べて、特にすぐれていること。

戦いどきに、後ろに下がねば川に落ちてしまつたような場所へ必死に戦つたという話からできた言葉。

(7) 断腸

一歩もあとにひけない状態で、全力で取り組むこと。

ある母ザルが、人間に子どもをつかまえられた悲しみで死んでしまった。その母ザルのおなかの中を見ると、腸がずたずたにちぎれていたという話からできた言葉。



故事成語 2

故事成語の意味がわかる

月 日
名 前

■ 次の意味にあてはまる故事成語を から選んで記号で書きましよう。

(1) 「一面の緑色の草むらの中に赤い花が一輪だけさいている」という詩の一節から、たくさん
さんの男性の中に女性が一人だけいること。

人さし指のいさを「食指」といふ。

(ウ)

(2) おいしい食べ物が食べられるときに人さし指が動く人物の話から、食欲がおこったり、
何かをほしいと思ったりすること。

(エ)

(3) 熱い汁物を食べてやけどをした人が、冷たいあえ物を食べるときにも用心して息をふい
て冷まそうとしたという話から、失敗にこりて必要以上に用心深くなること。

(キ)

(4) ある美しい女性が病気に苦しみ、まゆをひそめて歩くのを美しいと思った別の女性が、
まねをしてまゆをひそめて歩いた。しかし、周りの人にいやがられたという話から、よい
か悪いか考えずに、むやみに人のまねをすること。

(ア)

(5) 竹の最初の一節をわると、あとは勢いよくわれていくということから、だれにも止めら
れないくらい勢いが激しい様子。

(オ)

(6) 黄河という川の上流に「竜門」という流れの急なところがある。そこをのぼることがで
きたコイは竜になれるという伝説から、そこをくぐりぬければ出世したり成功できたりす
る難しい試験や審査を指している言葉。

(カ)

(7) 気に入らない人には白眼で応対し、気に入った人には青眼で応対した人物の話から、人
を冷たい目つきで見たり、冷たくあつかったりすること。

(イ)

ア	ひそみにならう	イ	白眼視	ウ	紅一点
エ	食指が動く	オ	破竹の勢い	カ	登竜門
キ	羹に懲りて膾を吹く				





故事成語 3

故事を読んで、その故事からできた言葉がわかる

月 日
名 前

■ 次の話をもとにしてできた言葉を□から選んで記号で書きましよう。

(1) シギという鳥が、貝を見つけて食べようと思いました。貝は食べられたくないので、貝がらでシギのくちばしをはさみました。シギは貝を食べたいのでくちばしをぬきません。貝も食べられたくないので、シギのくちばしをしっかりとさんではなしません。おたがいに、そのままの状態がまん比べをしていると、漁師が通りかかりました。

「こんなところにシギと貝がいるぞ。」

漁師は、シギと貝のどちらもつかまえてしまいました。

(ウ)

漁夫の利…二人が争っているうちに、関係のないほかの人が得をするい。

(2) 秦という大国の王様が、趙という国の王様に、「趙の国の宝物である『壁』と十五の城を交かんしよう」と持ちかけてきました。しかし、趙の使者が「壁」を持って秦に向き、秦の王様と話をしたところ、「十五の城と交かんしよう」という話はうそで、「壁」だけをうばいとうとしていいることがわかりました。そこで使者は、命がけて「壁」を守りきり、ついに完全な状態で趙に持ち帰ることに成功したのです。 ※秦の王様の話がうそだとわかって、趙の使者がすさまじくおこったことからできた言葉が「怒髪天をつく」。

(ア)

完璧…少しの欠点もなく、完全ない。

(3) 杞という国に、天が落ちてきたり地がくずれたりして、身の置きどころがなくなることを心配する人がいました。そして、心配のあまり、夜もねむれず、ご飯も食べられなくなりました。見かねた知人が、天が落ちたり地がくずれたりするようなことはないと言明してあげると、この人はやっと安心することができたのでした。

(イ)

杞憂…しななくてもいいような心配をするい。「憂」は「心配する」という意味。

ア 完璧

イ 杞憂

ウ 漁夫の利



故事成語 4

故事成語の正しい意味がわかる

月 日
名 前

■ 次の故事成語の意味としてあてはまるほうに○をかきましよう。

(1)と(3)は、特に意味をまちがえやすいので、気をつけましよう。

(1) 他山の石

他人のよくない言動でも、自分の行いをよくするた
めの参考になること。
他人のよい言動を見習って、自分の行いをよくする
こと。

他山とは、よその山のこと。よその山から出た質の悪い石でも、寶石をみがいて美しくするのに役立つとい
うことからできた言葉。

(2) 推敲

詩や文章のまちがいを見つけて、最初から書き直す
こと。

ある詩人が、詩の一節に使う言葉として「推す」がいいか「敲く」がいいか迷って考えたという話からでき
た言葉。

(3) 破天荒

だいたんな行動をする様子。
今までだれもしなかったようなことをすること。

役人の試験の合格者を出したことが一度もない地域を「天荒(全く開けない土地)」と呼んだ。しかし、つい
に合格者が出たので、人々が「天荒を破った」と言ったことからできた言葉。

(4) 知音

おたがいのことをよく理解している親友。

友人から届いた手紙。
友人が琴をひく音を聞いて、その心情をいつも言い当てたという話が
らてきた言葉。

(5) 覆水盆に返らず

一度始まったことを、とちゅうでやめるのは難しい
ということ。

一度してしまったことは、取り返しがつかないとい
うこと。しかし、夫が出世すると、「もう一度妻にしてほしい」と言ってきた。そこで夫が盆の水をこぼして「この水を元通りにできたら望み通りにしよう」と答えたという話からで
きた言葉。
力の強い人の言いなりになること。

(6) 虎の威を借る狐

権力がある人の力を借りていばる人。

トラにおそれそれになったキツネが、「神様が私を全ての動物の王様にしたから私を食べてはいけない。う
そだと思つたら、私のあとについてきなさい」と言った。トラがその通りにすると、確かに動物たちがみん
なにげ出したが、それはキツネの後ろにいるトラをおそれてにげただけだという話からできた言葉。



適切な故事成語がわかる

月 日
名 前

■ 次の文の□にあてはまる故事成語を、意味を参考にして、□から選んで記号で書きましよう。

(1) これ以上話してしまおうと□になる。……………(イ)

意味 よけいなもの。

蛇定…ある人たちが、ヘビの絵をかく競争をした。最初にかきあげた人が、よゆうを見せてヘビに足を付け加えたところ、「足があるのはヘビではない」と言われて、負けとされてしまったという話からできた言葉。

(2) 全ての小説の中で、□といわれるものを読む。……………(オ)

意味 同じ種類のものの中で、特にすぐれているもの。

白眉…全真優秀な五人の兄弟がいた。なかでもいちばん上の兄が最もすぐれていたが、この人には、まゆに白い毛がまじっていたという話からできた言葉。

(3) □で、野球チームのコーチとしてむかえた。……………(ア)

意味 仕事を引き受けてもらうように、特にうまいことしたのむい。

三顧の礼…ある国の王が、国の軍師としてむかえたいと思った人物のもとを三度訪ねて、れいぎ正しくお願いしたという話からできた言葉。

(4) ぼくとたかし君は、小さいころから仲のよい□だ。……………(カ)

意味 幼なじみ。

竹馬の友…子どもたちの、竹馬に乗って遊んだあいだからだということからできた言葉。

(5) 兄が後ろ向きなことばかり言うので、不安な気持ちで□された。……………(ウ)

意味 ある状態になるのを、やらに助けるい。

助長…なえを早く生長させようとして引っぱって無理にのばそうとしたところ、結局からしてしまった人物の話からできた言葉。「物事をよくするために手助けする」という意味で使われるいもある。

(6) なまけていたことが先生の□にふれて、一時間説教された。……………(キ)

意味 目上の人のいかり。

逆鱗…「逆鱗にふれる」と使うことが多い。竜のあごの下には、ほかとはさかさに生えたうろこがあり、それにつれると竜がうって人を殺すという話からできた言葉。

(7) 計画が□だったせいで、全く予定通り進まなかった。……………(工)

意味 物事をいいかげんにするい。

杜撰…杜撰という人物が作る詩は、詩を作るときのみまりに合わないものが多かったという話からできた言葉。詩を作るいを「撰」とい。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|----|---|----|
| ア | 三顧の礼 | イ | 蛇足 | ウ | 助長 | エ | 杜撰 |
| オ | 白眉 | カ | 竹馬の友 | キ | 逆鱗 | | |

